

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104042		
法人名	医療法人社団 松涛会		
事業所名	グループホームケアタウン江の浦		
所在地	山口県下関市彦島江の浦町9丁目4番5号		
自己評価作成日	平成28年4月25日	評価結果市町受理日	平成28年11月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年5月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「地域の中でいきいきと その人らしくゆったりと 楽しく自由にありのままに」を下に、一人ひとりを尊重し安全で穏やかな生活を支援しています。住宅・商店に隣接しており、気軽に外出できる環境です。散歩中に出会う近所の方々との挨拶や会話もあり、近隣の保育園との交流、毎月行なわれるボランティアによるスリーAや、夕焼け楽団・二胡の演奏会・お茶会には、ご家族や近所の方々の参加もあります。自治会で行なわれているカフェへも参加しています。

併設医院・訪問看護ステーションと密な連携で、心身の健康をサポートし入居者ご本人、ご家族とも安心していただける場です。一人ひとりの思いを大切に受け止め、寄り添い、ご家族・地域の方々と共に支え合える支援を心掛けて行きたいと思っています。内外研修にも積極的に参加し、向上心を持ち専門性を深める努力を続けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議のメンバーに、新たに自治会長や幼稚園長を迎えられ、月1回、公民館で開催される地域サロン「ウェルカムサンデー」の情報を得られて、利用者や職員が参加され、地域の人と一緒にギター演奏などを楽しまれたり、事業所にボランティア(スリーAや夕焼け楽団など)の来訪がある時には、メンバーを通して地域の人に参加を呼びかけられ、参加された地域の人や法人の他サービスの利用者などと一緒に体操や音楽を楽しまれています。市消防防災学習館「火消鯨」の消火、避難誘導体験に利用者と職員が一緒に参加されたり、消防署と自治会連合会主催の火災時の避難訓練に法人職員と事業所職員が参加され、地域の人と地域や事業所の避難時の問題点や災害時の対策について話し合う機会を得られるなど、地域とのつながりを深め、交流をもとに利用者の楽しみづくりや安全な生活の確保に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の勉強会を、毎年行っている。 出勤者にて、毎朝唱和を行い意識を高め、実践に努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。理念にそった月目標を職員が交代で考え、理念と共にファイルにまとめ共有している。月1回の職員ミーティングで話し合い、毎日の申し送りで確認して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児との交流、美容院・スーパーの利用。 ボランティア(スリーA・お茶・夕焼け楽団・二胡)の来訪。 近所の方の参加も受け入れている 自治会にて行われているカフェへの参加。	運営推進会議で情報を得て、公民館で開催している地域サロン「ウェルカムサンデー」(月1回)に利用者や職員が参加して、地域の人とギター演奏などを楽しんでいる。ボランティア(スリーA、夕焼け楽団、お茶会、二胡演奏など)の来訪時は、運営推進会議のメンバーを通してポスターなどで地域の人に参加を呼びかけ、参加した地域の人やディサービスや小規模多機能型居宅介護事業所の利用者と一緒に交流している。市消防防災学習館「火消鯨」の消火、避難誘導体験に利用者と職員が一緒に参加している。近隣の美容室やスーパーの利用時や散歩時に地域の人や他事業所利用者と挨拶を交わすなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の方々と認知症への理解・支援方法等話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員、自己評価の記入を行う。管理者と計画作成担当者にてまとめている。評価結果を受け話し合いを行いながら、改善に取り組んでいる。	自己評価をするための書類を全職員に配布し、記入してもらい、年2回の面談時や日常業務の中で管理者と職員が話し合い、管理者がまとめている。職員は話し合うなかで評価項目について理解を深めたり、ケアの振り返りをしている。地域の避難訓練に参加して、地域の人と地域や事業所の避難時の問題点や災害時の対策について話し合う機会を得たり、運営推進会議のメンバーを増やしているなど、できることから改善に取り組んでいるなど、評価を活かしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催、利用者の状況・活動報告・職員研修報告している。毎回議題を決め話し合っている。 地域ボランティアの紹介を受け、二胡の演奏会も行った。	新たに、自治会長と幼稚園の園長がメンバーに加わり、年6回開催している。利用者状況、活動(行事、研修)、避難訓練、ヒヤリハット、外部評価結果等を報告し、情報交換している。小学校で行っている地域の避難訓練や公民館のサロンなどの行事の情報を得て地域の人との交流につなげたり、事業所に来訪するボランティアのコンサートにメンバーを通して地域の人に参加を呼びかけ、40人程の参加得て利用者と一緒に楽しむ機会をつくるなど、そこでの意見を活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センター職員又、年1回介護保険課職員に参加して頂き情報交換を行っている	市担当者とは、出向いたり、電話で相談をして助言を得たり、情報交換をして協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報を交換しているなど、連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム内の勉強会で学び抑制・拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は出入り口の施錠も行わず、外出希望の方は、職員同行にて自由に出掛けることができる。	職員は、外部研修や内部研修で身体拘束について学び、理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。月目標にスピーチロックをしないケアを掲げ、全職員で取り組んでいる。玄関には施錠せず外出したい利用者とは職員と一緒に外出している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内の勉強会にて、高齢者虐待について学び、不適切なケアについて話し合い虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム内の勉強会権利擁護・成年後見制度に関して学んでいる。入居者の希望がある時は、買い物や外食等の外出は、ご家族との話し合いを行い理解を頂き行っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される前に、契約について管理者・介護支援専門員より説明を行い、理解・納得して戴けるよう努めている。入所後も疑問点等発生時には、その都度対応している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情の受け入れ体制は、常に整えている。契約時に家族へは説明を行い、運営推進会議や来訪時、電話等で家族より意見や要望を聞いている。家族より個別外出支援希望があり反映している。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。意見箱を設置している。運営推進会議時や面会時、電話などで家族からの意見や要望を聞いている。外食や買い物に対する要望など、ケアに対する要望にはその都度対応している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員ミーティング・年2回の個人面談で職員の意見を聞く機会を設けている他、日頃より「コミュニケーションを図り意見を言いやすい体制作りに努め、業務やケアに反映させている。	管理者は、月1回の職員ミーティングや年2回の個人面談で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は日常業務の中で聞いている。業務担当（外出支援、行事、通信）を決めて話し合い、でた意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員が向上心を持ち働く事の出来る、環境・条件の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整を行い、法人内外の研修を受ける機会を設けている。拠点内研修の参加や内部研修では、全職員が順番に中心となり毎月行いレベルを上げていくように進めている。	外部研修は、情報を職員に伝え、段階や希望に応じて参加の機会を提供している。受講後は月1回の職員ミーティングで復命報告をし、資料は閲覧できるようにしている。法人研修（年3回）や拠点内研修（人権問題、感染症、ストレスチェック等）に参加している。内部研修は、年間計画を作成し、月1回、1時間程度、職員が交代で講師を務め、緊急時の対応（AED訓練、薬）、身体拘束、理念、接遇、感染症などについて実施している。職員の研修終了記録表をつくり、全職員のスキルアップを図っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などを通じ、情報交換を行い サービスの質の向上を目指すように取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の想い・訴えをしっかりと傾聴し受け入れる。ご本人が安心出来る環境・関係作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時より、ご本人・ご家族の要望・想い等、しっかり傾聴し信頼関係を深めるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の必要・希望と支援と、グループホームでの可能な支援を見極め、カンファレンスを行いながら、個別外出支援（買い物・外食）等、柔軟な対応が出来るように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしている家族と考え、いかなる時も一緒に喜び悲しみを分かち合える関係を築くように努力している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆を大切にしながら、ボランティアによるイベント参加や茶話会にて、一緒に過ごせる時間を作り、共に支え合う関係を築くよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談の上、ご本人の馴染みの場所・人との関係が途切れる事無いよう、ご家族の協力を得ながら、法要や墓参り・馴染み周辺のドライブ・行き着けの場所等支援継続していくよう努めている。親戚・知人の来訪や、電話の取次ぎも支援している。	家族や親せきの人、友人、知人の来訪がある他、有料老人ホームへの友人の訪問、年賀状やはがきでの交流、馴染みの商店での買い物、自宅周辺のドライブなどの支援をしている。家族の協力を得て、外出や外食、外泊、法事への参加など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援にしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、団欒・食事時の席の位置や会話の誘導など心掛け、ご利用者同士の穏やかな関わりを支援するよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方、入院者は定期的にお見舞い・他施設者には訪問し、ご家族へは、定期的に電話等でご連絡、関係が途切れないように努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族より情報を得てアセスメント票への記入。日々の会話・表情より、ケア記録やセンター方式のシートの記入を行い職員間で話し合い共有し、ご本人・ご家族の希望・意向の把握に努め、可能な限り添うように努めている。	入居時のアセスメントの活用や、日々の関わりのなかでの利用者の様子や言動、職員の気づきを介護記録に記録し、月1回のカンファレンスで検討して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は利用者を担当する職員を中心に、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご本人・ご家族より、生活リズム・生活歴などをしっかり聞き取り把握するように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムの把握に努め情報を共有し、状況・観察を行ない変化を見落とさないように努めといる。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング・個別カンファレンス・毎日の申し送り時に必要に応じて意見交換のミニカンファレンスを行なっている。介護計画作成時は、ご本人・ご家族の要望・想いを聞き取り計画作成担当者・担当職員中心に作成している。	計画作成担当者と利用者を担当する職員を中心に月1回のカンファレンスで、本人や家族の思いや要望、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。毎日、計画にそったケアができているかチェックをし、月1回、利用者を担当する職員がモニタリングを実施している。計画作成担当者が3ヶ月ごと、6ヶ月ごとにモニタリングを行い、1年、6ヶ月の見直しをしている他、利用者の状態や要望に応じてその都度見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に日々の様子・言動を記入し職員間で共有し 実践・介護計画のモニタリング作成時の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の希望・状況に合わせての外出・外泊 個別支援として外出時の同行等行う様に多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の美容院の利用・スーパーでの買い物、自治会が行なっているカフェへの参加等、安全で豊かな暮らしを楽しむ支援に努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族納得の上で、併設の内科医がかかりつけ医院となり、月2回の往診や緊急時の対応にも適切な支援が受けれるよう連携している。 他科受診時ご家族が付き添えない場合職員が同行し、ご家族へ結果・状況報告を行なっている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療がある。歯科などの他科受診は家族の協力を得て支援をしている。結果は、電話や面会時に家族に伝えている。職員間では「医師との連絡帳」や「職員連絡帳」で情報を共有している。緊急時は協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護・かかりつけ医院看護師による週3回の訪問にて、利用者の体調相談を行い、必要に応じて受診が行なえるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	かかりつけ医院と総合病院・母体病院との連携対応を行なっている。医療連携での訪問看護とも情報交換を行いスムーズな対応が出来る。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、「重度化対応・終末期ケア対応指針」に基づいて、ご家族へ説明し、実際に重度化された場合は、ご家族の希望・要望を取り入れ、ご家族・主治医・看護師・職員との話し合いを行いながら、医療機関や他施設への移設。看取りの必要な時は連携をとりながら支援を行っている。	契約時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」に基づいて、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族や主治医、看護師、職員で話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて、共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット・インシデント・アクシデント報告書の記入を行い職員で改善対策についての話し合い情報の共有を行い、再発防止に努めている。グループホーム内勉強会で、応急手当・初期対策AEDの使用訓練を行っている。全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	事例が生じた場合はその日の職員で改善策を検討し、ヒヤリハット報告書やインシデント、アクシデント報告書を作成している。事例を申し送りで共有して検討し、介護計画に反映させて一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。法人の救急救命講習に参加している他、内部研修でAED使用や緊急時対応、感染症などについて学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間想定と夜間想定と年2回、拠点内での避難訓練で消火訓練・避難誘導等の実施をしているが、実践的な能力は身につけていない。民生委員の参加や地域への促しを行なうが、協力体制を築いているまでには至っていない。	年2回、拠点施設合同で昼夜間を想定した消火、避難訓練を、利用者や運営推進会議メンバー(1名)の参加を得て実施している。市消防防災学習館「火消鯨」の消火、避難誘導体験に利用者と職員が一緒に参加している。消防署や消防団、自治会連合会主催の火災時避難訓練に法人職員と共に職員が参加し、地域の人と地域や事業所の避難時の問題点や災害時の対策について話し合う機会を得ている。運営推進会議でも検討しているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホーム内勉強会にて学び、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛け実践に努めている。	内部研修でパーソン・センタード・ケアを学び、人格の尊重とプライバシーの確保について月目標に掲げて、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の思い希望、自己決定が出来る支援を心掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先とせず、一人ひとりの生活リズムに合わせ、希望に添える支援、パーソンセンタードケアの実践を心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣服の選択にて着用、近所の美容院にて希望の髪形にカットして頂いている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備・配膳・片付けを利用者と一緒に行い、一人ひとりの状態に合わせた形状の対応を行なう。おやつ作りやご家族の協力にて外食等、食事を楽しむことの出来るよう努めている。	朝の味噌汁とご飯は事業所で調理し、副食は法人の配食を利用して、利用者一人ひとりに合わせた形状で提供している。利用者は盛付けや配膳、下膳などできることを職員と一緒に、気の合う利用者同士や職員と一緒に同じテーブルを囲んで、会話を楽しみながら食事している。季節の行事食(おせち、クリスマス会など)や赤飯の日、ちらし寿司の日、要望に応じての個別外食、おやつづくり(月見団子、フルーツポンチ、手作りチョコレートなど)、家族の協力を得ての外食など、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により栄養バランスは管理されている。状況に応じて 刻み・トロミ・お結びと形を変え 自力で食べて頂けるように支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、状態や能力の合わせて口腔ケアを行っている。 義歯は毎晩ポリデント洗浄を行い清潔を保っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は失禁ショーツ・布ショーツ・布ショーツにパットで、個々の排泄パターンに合わせ声掛けや誘導により、トイレでの排泄支援を行っている。	排泄記録表を活用してパターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前の牛乳や水分量管理を行い。個々の排泄リズムに応じた緩下剤の調整を行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日中を通して入浴出来る体制を取っている。希望やタイミングに合わせ無理せず、楽しみながら入浴出来るように支援している。	入浴は毎日、10時から16時の間可能で、2日に1回は入浴できるよう支援している。利用者の状態に合わせてシャワー浴や足浴、部分浴の支援をしている。入浴したくない人には、声かけや時間をずらすなどして対応している。入浴中に歌を歌ったり、ゆっくりと話を聞くなど工夫して、楽しく入浴できるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に応じてリビンググループや個々の居室にて、休息したり、良眠出来るよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用について学び服薬支持を行なう。症状、変化の観察を行ない 情報の共有、確認に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティア(スリーA・お茶会・夕焼け楽団・二胡)や、保育園児との交流や行事(クリスマス会・節分・ひな祭り・お月見)への参加。DVD観賞・リズム体操や好みに合わせた雑誌や写真集の鑑賞・活花。日常家事の洗濯干し・畳。掃除や配膳・盛り付け・下膳、等生きがいを見つけられるように努めている。	書初め、節分の豆まき、ひな祭り、七夕飾りづくり、夏祭り、花火大会、月見、ボランティア(スリーA、夕焼け楽団、お茶会、二胡演奏など)の来訪、指体操、リズム体操、貼り絵、折り紙、パズル、カルタ、ジェンガ、テレビやDVDの視聴、花の図鑑や雑誌を読む、生け花、新聞紙のごみ袋作り、裁縫、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、シーツ交換、お茶のバック詰め、花の水やり、食事の準備や片付けなど、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所へのスーパーでの買い物・散歩・郵便や、地域のカフェの参加、桜花見・紅葉・チューリップ園・文化祭や消防署での消火体験外出支援。ご家族の協力を得て、外食や衣料品店での買い物。墓参り・法要等、個別での外出支援も行っている。	花見(桜、チューリップ、バラ、アジサイ、紅葉)、月1回の公民館の地域サロン「ウェルカムサンデー」、市消防防災学習館「火消鯨」の消火、避難体験、法人の文化祭、自宅周辺のドライブ、大型スーパーでの買い物や外食、個別外食、近隣の美容室やスーパーの利用、散歩、家族の協力を得ての外出や外食、外泊、法事への参加など、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の持参は行っていない。 買い物支援時での支払いをしていただけるように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・友人等外部者からの電話の取次ぎや、ご希望時はお掛けする支援も行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの温度・室温確認や日差し調整を行っている。季節の花々を活け、季節を感じて頂いている。椅子やソファを配置し、思い思いに過ごして頂けるように工夫している。	リビング・ダイニングは大きな窓から入る陽ざしで明るく、棚や食卓に季節の花を飾っている。天井を泳ぐ大きな鯉のぼりや五月人形で季節を知ることができる。テレビの前や広い廊下にソファや椅子を置いて、利用者が思い思いにゆっくり過ごせ領内場所づくりをしている。温度や湿度、換気に配慮して、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファの位置の工夫、ソファを廊下にも配置し、思い思いに過ごして頂けるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に、本人の馴染みの家具や家族の写真など飾り、本人とご家族の希望にて、ベット・ソファ・家具の配置し、本人が心地良く過ごせるよう配慮している。	衣装ケース、衣装掛け、靴棚、三段棚、籐椅子、ソファ、机、鏡、化粧品、日用品など使い慣れたものを持ち込み、家族の写真や習字の作品などを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・風呂場の位置を分かりやすく表示している。個々の機能に合わせ、移動・洗面・排泄介助・助言を行い、安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームケアタウン江の浦

作成日：平成 28 年 11 月 19 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	応急手当・初期対応への不安を持っている。 定期的訓練が不十分である。	全職員が、応急手当・初期対応の実践能力 強化に向け、定期的訓練を行なう。	勉強会にて、緊急時の対応の再確認を行い、A EDは、全職員実践し体験する。 消防局の救命講習に参加する。	3年
2	36	全職員が災害対策の意識が低い、利用者を安全に避難誘導出来る判断力・実践力に欠けている。 地域との協力体制の構築	火災対策だけでなく、地震・水害時の避難対策の実践的能力を身につける。 地域の方々にも協力していただける関係作り	災害対策のマニュアルを見直し、全職員にて シュミレーションや、訓練を繰り返し行ない実践力・判断力を個々身につける。 自治会・近隣住民への協力要請。	3年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。